

# 臨床研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学（病院）では、研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施しています。

ご家族又は代理人の方が、この研究のために試料・情報を使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。

研究課題名	抗ミオグロビン抗体を用いた免疫組織化学染色による低体温症の死後診断に関する研究
研究機関名	金沢医科大学
研究責任者	金沢医科大学医学部法医学講座 助教 竹下 裕史
研究期間	倫理審査委員会承認日 ~ 2025年 3 月
対象者	2016年1月～2023年12月の期間に、本学医学部法医学講座で解剖に付された方
当該研究の意義・目的	低体温症による死亡（凍死）では決め手となる所見が少ないため、死後診断が難しいといわれています。一方、低体温症例では腎臓に筋肉中の成分であるミオグロビンが蓄積する傾向があると報告されています。本研究は、各種死因における腎臓へのミオグロビンの蓄積状況を明らかにし、この所見が低体温症（凍死）の死後診断に有用であることを証明するために実施しています。
方法および研究で利用する試料・情報について	<p>法医解剖は主として死因究明を目的として実施しており、解剖中に検査用試料として臓器の一部や血液、尿などを採取・保存します。ほぼすべての解剖例において、解剖終了後に保存臓器の一部から組織標本を作製し、顕微鏡を使用した組織学的検査を行います。また、薬物中毒等が疑われる症例では、血液などから分析機器を使用した薬毒物分析を行う場合があります。</p> <p>本研究では臓器の一部を試料として、筋肉に含まれるミオグロビンに対する抗体を用いた免疫組織化学染色標本を作製し、臓器中のミオグロビンの蓄積について低体温症とその他症例とを比較します。また、血液中のミオグロビンやその他成分を測定し、血液中成分の変動について低体温症とその他症例とを比較します。</p> <p>本研究の対象となった方の個人情報はずべて匿名化し、そのうえで年齢、性別、解剖所見および死因、最終生存確認時刻、発見時刻、死後経過時間等を抽出したデータベースを構築します。このデータベースと組織標本の所見の評価、各種血液成分の測定結果をまとめ、死因との関連性を解析します。</p> <p>上記期間中に実施した法医解剖で採取した保存試料を本研究のために使用させていただきます。本研究を遂行するうえで、御遺族の方々が費用を負担することは一切ございません。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。</p> <p>使用する試料は心臓、腎臓、骨格筋等の保存臓器の一部、および血液試料等です。</p>
外部への資料・情報の提供	本研究で扱うデータおよび試料は外部施設に提供されることはありません。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	ご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
問合せ先	その他、この研究に関するお問合わせは、下記へご連絡ください。 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1 金沢医科大学医学部法医学講座 担当：竹下裕史 ☎：（直通）076-218-8099 （FAX）076-286-5242

作成日： 2024年3月22日